



公益社団法人芦屋市シルバー人材センター

はつらつ 芦屋

2012・7 No.14



ホームページアドレス <http://www.sjc.ne.jp/ashiya/>

TEL 0797-32-1414 FAX0797-31-9223

芦屋市上空の金環日食 5月21日午前7時27分
キャノン一眼レフ 200ミリF16 1/4000
ノーフィルター撮影 笹部 成雄(会員番号873)

公益社団法人に衣替え

地域社会への貢献めざし



これからの芦屋市シルバー人材センターを担う役員の方皆さん

世紀の金環日食、東京スカイツリー開業に続いて5月25日、公益社団法人に衣替えした芦屋市シルバー人材センターの平成24年度定時総会がルナホールで開催されました。

センターは設立25周年を迎えて、登録会員が900名を超える右肩上がりの躍進ぶり。出席者も740名(当日出席344名、委任状396名)で総会は成立。

中原伸二理事長挨拶、永年会員と一般表彰、来賓祝辞に続いて、三木公輔議長と國吉まち子司会のスムーズな進行と事務局の説明で、議事は全て満場一致で承認されました。

その後、新理事長等選出のための理事会が開かれ、総会は一時中断。その間議場では、会員活動委員の乃生須会員から25周年記念事業についての予告がありました。理事会終了後、全役員の紹介と、山村昇新理事長の気迫に満ちた就任挨拶が披露されました。

「はつらつ館」を拠点として、今まで以上に市民と手を携え、より良い地域社会の実現に向け、公益社団法人としてのスタートを切ることにしました。

市民センターでは恒例の懇親会がにぎやかに行われ、歓談の輪が広がりました。

安全大会を開催

総会の後、安全委員会による安全大会が開催され、山本徳高委員長が一層の安全確認の重要性を強調。

向井節子委員から「センターが前進するためには、会員が安全かつ健康であることが不可欠。これからも事故の無い、最も安全安心なセンターを目指し、全力を尽くして邁進することを誓い、ここに安全就業を宣言する(要約)」と大会宣言が発表されました。



今年の安全標語は武川不二江会員(写真右)による

無理せずに安全確認忘れずに



理事長就任の挨拶

山村 昇

このたび理事長を仰せつかり、その職責の重さをひしひしと感じております。

シルバー人材センターを取り巻く環境は厳しく、事業仕分けによる補助金の削減、景気の低迷、不適正就業の指導等各センターは苦慮しています。そんな中、当センターの事業規模は5年前の平成19年度と比較して会員数で約1・5倍、契約額で約1・2倍と右肩上がりです。

前年を下回っている多くのセンターがある中において特筆すべきことあります。

芦屋市ご当局の深いご理解と、皆様方のご尽力の賜物であります。

シルバー人材センターは、高齢法により高齢者の多様な働き方の一翼を担って高齢者に就業機会を提供するために補助金をいただいている団体です。従って法令順守はもとより、組織運営の効率化、コスト意識の自覚が強く求められています。

一方、高齢者は従来福祉の受け手と言われてきましたが、元気な高齢者は福祉の担い手として位置付けられています。シルバー人材センターがその役割を担い地域社会に貢献することも大切なことあります。

このような課題に対し、皆様方のお力添えをいただき専心努力いたします所存ですので、前任者同様ご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



山村新理事長から特別表彰を受ける理事退任の左から、中原、北川、宮本、酒井の各氏



枚田副理事長の音頭で乾杯



和やかムードの懇親会場



永年会員表彰を受けた皆さん

更なる発展を期待

900名を超える大所帯となりました。企業が少ない芦

“ 独自事業の活躍ぶりを紹介します ”

最近の芦屋シルバーの発展は素晴らしく、会員数

英会話クラス (E.S.S.T.)

一味ちがった英語クラス、「ワン・コインの英語クラス」が会員はもとより、市民の方も参加されてスタートしています。

身近な英会話クラス

～会話表現と発音

クロスワード・クラス

～会話にいきるボキャブラリ

懐かしの名画クラス

～ヒヤリングとエピソード

ポピュラーソング・クラス

～英語でカッコ良く

ご家族やお孫さんと一緒にいかがですか？ E.S.S.T.(English Speaking Support Team)は英語での就業を目指しています。

縫製事業(はんでん班・リフォーム班)

はんでん班は、芦屋市シルバー設立時から始められた草分け的な存在。大切な着物をリサイクルのため縫い直したところ評判。主な販売は春と秋の「あしや祭り」だが、口コミやネットでの注文もあります。お土産として遠くフランスに渡ったこともあり。現在班員は9名。

リフォーム班は、昨年の6月に生活支援委員会の呼びかけで有志が集い立ち上がりました。スポンの裾上げから注文仕立てまで受付けています。初めは会員対象でしたが、市民にも周知したところ注文増加中！現在班員は6名。



成年後見制度講座

人は誰しも年をとったら身体能力や、判断能力は衰えてきます。認知症は病気ですが、物忘れは病気ではありません。しかしどちらも判断能力が衰え、日常生活に支障がおきてきます。その時に役立つのが介護保険と同時にスタートした 成年後見制度です。

会員や市民への講演会による啓蒙活動を、男性6名(現成年後見人2人、元成年後見人1人)と女性5名で活動して3年になります。

「法人後見」、「市民後見」、「成年後見相談窓口」を視野にいれ、毎月の勉強会も行なっています。

この活動の中から講演会を独自事業として立ち上げました。

成年後見制度推進グループ

パソコン講座

パソコン研究会は、発足から6年。会員も19人になりました。

シニア向けのパソコン講座が主な事業です。現在2階・中会議室で、毎週5講座(各講座定員10名)を開講、好評を得ています。他にホームページの制作などパソコンに関わる仕事も受託しています。毎月1回全員が集まる月例会では、事業の報告・検討等に加え、会員相互のパソコン技術の更なるスキルアップを図っています。



大盛況のパソコン講座

大活躍の独自事業

たのしい放課後教室

小中学生の学習支援を目的に、昨年7月から始まった新しい独自事業です。毎週火曜日と木曜日、小学生は午後4時30分から、中学生は午後6時5分から1時間半、算数(数学)と英語の教室を開いています。スタート時点では申込者が少なく心配しましたが、見学に来られた殆どの方が即決で入会され徐々に生徒が増え、今年度は小学生17人、中学生13人が元気にはつらつ館へ通っています。学力向上のため、子供たちが勉強が好きになるように、楽しくやる気が出るように、現在21人のスタッフで頑張っています。



乳幼児の一時預かり事業

昨年度は、1,000人以上の子どもたちが利用！センターの子育て支援班「キッズサポートまっぼっくり」が実施している事業です。「はつらつ館」2階の専用ルームで、祖父母力を大いに活用しています。23年度の事業高は約200万円、延べ1,000人以上のこどもたちが利用をしました。子育て支援班員は今や50名近くになりました。明るい部屋で、お弁当をモリモリ食べる子、食べない子、泣く子、はしゃぐ子、みんなこうして成長するのですね。「じいじ、いる？」とやってくる男の子。2人のじいじは大人気。我こそはと思われる男性会員の方！託児ルームは期待しています。



実現を進めるためには、シルバーの経験と技術を活かして、生活の向上に役立つ事業の開発が必要だと考えるからです。独自事業を立ち上げるには、志を同じくする会員が集まり、グループで事業化することが必要です。わが芦屋

高齢者支援事業「はつらつコール」

平成23年5月に傾聴活動グループを発足しました。傾聴講座を受講し、勉強会を重ね、エルホーム芦屋(特別養護老人ホーム)を訓練の場として約1年間、話相手を求めている高齢者に対して傾聴ボランティアを行いました。相手の気持ちになって聴く難しさを体験しました。準備期間を終えて、平成24年度は事業として立ち上げることになりました。



エルホーム芦屋での傾聴活動中の会員

書道教室

経験豊富な講師が中心となって今年3月に立ちあがった書道班。現在は会員対象の教室を月2回開講。教材はいろいろで、太字からかな文字まで好きなテーマが選べるので、楽しみながら書に親しめます。いつかは作品展を!を目標に「書」を通して生きがいの場を楽しんでいます。今後は独自事業として市民対象教室への発展を目指しています。



市シルバーには素敵な才能や技術を持った会員が沢山おられます。その能力を活かし、「自主・自立・共働・共助」の精神と合わせ、今後の発展のため独自事業への積極的な参加、あるいは新事業を立ち上げることも必要です。

紀行☆寄稿☆奇行？

東京五輪の思い出



金色に輝く入場証



私のIDカード

関年に行われる五輪。回を重ねるごとに派手になるが、さてロンドンは？
オリンピックとさえ言えば昭和39年、国を挙げての大イVENT東京大会を、カメラマンとして取材する幸運に恵まれた。

報道に携わった朝日新聞写真部員は八十余名。オリンピックカード(身分証明)は、写真部に五名分割り当てられ、その中の一人に選ばれた。IDカードを持つと、総ての競技場はフリーパス。金色の入場証(左上)を胸に、メインスタジアムを中心に人気の種目を担当した。
一糸乱れず素晴らしかった開会式。裸足のアベベ選手が連勝し、円谷選手が陸上唯一の銅メダルを獲得したマラソン。ソ連を破り、金メダルに輝いた女子バレー東洋の魔女など。
二週間にわたる熱戦は終わり、閉会式を迎えた。選手入場が始まると、突然「ウオー」、「ワアー」と怒涛のような大喚声がか場の外から沸き起こった。
一瞬、暴動か？と錯覚したが、実は、詰め掛けた選手達があげた開催国日本への感謝の叫び声だった。



日本の旗手を肩車する白人選手(写真右)。ランニング姿で会場を走りまわる黒人選手。手を振り、帽子を投げ、拍手、歓声、笑顔・・・

日本人の心を込めたもてなしに、世界の選手が感動。国立競技場に繰り広げられた前代未聞の祭典は、聖火が消えても、しばし余韻が収まらなかった。

仕事柄、気持ちを抑えることに慣れている。しかし、このシーンが浮かぶと滅多に無い涙腺がゆるむ。

半世紀近くも経った「東京五輪」だが、今も記念のメダルと共に心の中に輝き続けている。

(写真はいずれも筆者撮影)

笹部 成雄

(会員番号873)



マラソンのゴール目前ヒートリー選手(英・左)に抜かれ3位になった円谷選手



大松監督を胸上げする女子バレー金メダルの東洋の魔女たち



棒高飛びに優勝したハンセン選手(米)の力強い踏み切り

E.S.S.T.を立ち上げて

英語好きの仲間と「ESST」(イングリッシュ・スピート・キング・サポート・チーム)を立ち上げた。芦屋という土地がら海外からの帰国者、英語を話せる人が会員の中には多くいるだろうとのこと。でメンバーを募った。

現在、メンバーは14名である。パシリンガルの人は勿論、三カ国語から七カ国語を自由に使いこなせる人達もいる。ホスピタル・コンセルジュを指していたが、まず第一歩はシ

ルバーのための英語クラスとなった。

数多くある教室とは違ったカリキュラムを用意し、映画(写真・字幕が英語)や歌、クロスワードも組み込み、身近な英語クラスに



した。インストラクターは長い海外生活で英語を身につけている。映画も歌も青春時代と重なって楽しい。なにしろ楽しくなければ何事も続かない。

歳をとると若い人達と一緒にのクラスには入りにくい。同年代の人と若い時代を振り返りながらワイワイ楽しく学びたい。脳の活性化には一番のクラスではないだろうか。

参加費は一講座、ワン・コイン(五〇〇円)。また毎月、アメリカ人を交えたティー・パーティーでディスカッションがあり、英語で俳句など、文化や習慣の違いを学び、日本語の豊かさを新たためて知ったりと、若者のようにドキドキする。

シルバー会員の皆さん、ご家族

やお孫さんを連れて一度クラスを覗いてみませんか。

坪内 美津子
(会員番号1082)

英語川柳

坪内 美津子 (会員番号1082)
Charmed By the town of Cherry Blossom
Étrangere remained
魅せられし 桜の里に 異邦人

鈴木 一生 (会員番号1039)
Sure,your face is Cherrycolored,
because of HanamiSake
Not because of Me.....
花見酒 ほんにあんたも 桜色
わてのせいでは ありまへん

はつらつ川柳

北川 宣子
(会員番号1624)

縁ありて

シニアの仕事楽しくて

週一に

おかげさまでと喜ばれ

訪問日

笑顔で待てり お客様

しるは〜
父さん TAKE NO



竹野 勝久 (会員番号841)

ワーク・ア・ラ・カルト ポスティング

配布班の安井正勝さん（63才）は約3年前からポスティングのお仕事をされています。受持ち区域は六麓荘町と東山町の一部で、770所帯に約6時間をかけて県民だよりなどを配布しています。

六麓荘町は全国にも知られていて高級住宅地であるため一区画が広く、また坂道が多いためバイクを使用しています。仕事を始めた頃は住宅地図を見ながら家ごとにチェックし、投函していくので80世帯に配るのに4時間もかかったそうです。

現在は地図を見なくても効率の良いルートでポスティングしています。雨の日は配布物が濡れるおそれがあるので配布は控えています。

一番嬉しいことは配布先の方から「ご苦労さま」と声をかけ

られることです。この一言で疲れも吹っ飛びます。安井さんは笑顔で言われました。

* 配布班は現在54名が6班に分かれて芦屋市内の約43,000所帯に芦屋市や兵庫県から委託された配布物を配っています。

取材 浅井義也



愛用のバイクで配布中の安井正勝さん

うどん処 あしや夢蔵

芦屋のグルメ

美しい
桜並木に
面したビ



ルの半地下にある「うどん処あしや夢蔵」。材料と製法にこだわった自家製麺と出汁。美味しい麺を食べていただきたくからと注文を受けてから茹でるので、お時間は待ってくださいと言われる茹でたてへのこだわり。

メニューは国産すじ肉とこんにゃくが入った「ぼっかけうどん」、平日のランチはうどんが選べるお得な「うどん定食」、麺が見えない程すだちが入った女性に人気の「すだちうどん」などの麺類、ジュシーな国産鶏を使用した「温玉鶏天ぶっかけ」などの天



温玉鶏天ぶっかけ
850円

ぼっかけうどん
800円



ぶらやおでんがあります。天ぶらをお好みの天井や、一品をうどんのトッピングにされる方もあるとか。また日本酒ファンには嬉しい、店長のふるさと丹波の珍しいお酒も置かれています。

取材 加古良子



芦屋市茶屋之町5-12
スタアリアイ芦屋101
TEL 0797-34-2555
営業時間 11:30~14:30
17:00~21:00
定休日 木曜日

健康の秘訣

野遊び そして野菜作り

石垣 悠さんの巻
(会員番号1558)

一年の半分は往復四十キロの道程を通っています。行先は神戸市北区で里山の雰囲気が残った所です。

三年前この地で農園をしている同僚の北中さんの紹介で始め、最初は二十数年放置してあった休耕田の半分を、北中さんと地主の協力で開墾し野菜作りを始めました。更に翌年は残りの半分を開墾



して七十坪ほどになり、今は我家に必要な野菜は殆ど自給しています。

野菜作りが中心ですが、楽しみの大半はサイドワークにあります。小川の上に小屋を作り、焚き火用の場所を奥地に作り、収穫した薩摩芋をダッチオーブンで焼き・・・

椎茸栽培、漬物作り（妻の役目）そして周囲出は筍、ミョウガ、栗、柿など四季折々の旬のモノが沢山採れる豊饒な里山です。

ただ、良いことばかりではありません。マムシがいます。そして猪やアライグマからの被害も甚大です。これが里山の自然な営みであり現実だと思ひ、これ等を受け止めながら野遊びを楽しんでいます。

本題の「健康の秘訣」について確たるものはありませんが、農耕では身体を使い、採れたての有機野菜を食べ、自然の中でおいしい空気を吸い行動するところが、心身の健康に繋がる事だと思ひます。



「トラ・キチ」の仲良し夫婦

向井 秀隆(会員番号1376)
節子(同 1383)

ご夫婦で会員になられて4年目、マンション清掃・機械清掃班のご主人と配布班・安全委員、そしてE.S.S.Tで活躍のご夫人のご紹介です。

熱烈なる？社内恋愛？のすえ結婚されて今年で44年、芦屋在住6年目のお二人です。

ご主人はゴルフ暦30年以上、現在も月5回はコースでプレー。ベストスコアは77、ASG(芦屋市シルバールゴルフ同好会)での優勝と入賞は多々あり、常に本命候補。22年度の芦屋市民ゴルフコンペでも準優勝されました。

一方、ご夫人は茶道の裏千家、琴の生田流、生花の知香流を16歳より。現在はホームベーカリーとエスニック料理を趣味とされていますが、近隣の方からリクエストが引きもきらず、腕前はプロレベルです。最近では英会話に挑戦中です。

お二人の円満の秘訣は、「何事も引きずらない」とのことです。

そのために月3回は二人そろって外での食事と、買い物は必ず一緒に出かけ、以前は敵同士？でしたが、現在はどちらも「トラ・キチ」で年数回は甲子園に行きます、とのことでした。

これからも健康を第一に考え、「5人の孫が生きがい」とおっしゃるご夫婦です。

取材 鈴木一生

春の会員研修旅行は「国産み神話の淡路島」へ

淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に

いく夜寝覚めぬ 須磨の関守 (源兼昌)

今回の会員研修旅行は、国産み神話の島「淡路島」です。

6月6日8時、会員69名が2台のバスに分乗して「はつらつ館」前を出発し一路淡路島へ。車内は自己紹介の後、和気あいあいと話が弾みました。明石大橋を渡ったサービスステーションで最初の休憩。続いて「鯛おどる館」でちくわの試食、玉ねぎのお土産を頂きました。

次は淡路島七福神のひとつ、大黒天を祀る八淨寺で和尚さんの法話を聞き、香りの館パルシェへと車を進め、洲本市の海月館で待ちかねた昼食です。

山村理事長の挨拶、三栖常務の乾杯の音頭のあと楽しい食事が始まりまし

た。会場には歓談の輪が広がり、カラオケで次から次へと名？歌手が登場、時間がたつにつれ宴は最高に盛り上がりま

した。後はお風呂に行く人、散歩に出る人、楽しい時間は速く過ぎ、次の見学地、たこせんべいの里で買い物。

最後の見学地、伊弉諾神宮へ、境内は厳かな雰囲気、最高のパワースポットでした。帰りは、明石大橋を遠望でき

るオアシスで買い物、5時には帰路につきました。身近にありながらあまり知らない淡路島。大変勉強になりました。

一杯の思い出とお土産を抱えて我が家へ帰りました。

取材 岩崎準一



最初の休憩地、明石大橋を遠望できるサービスステーション



「はつらつ館」前をいざ、出発!



淡路島七福神「大黒天」を祀る八淨寺



大いに盛り上がった懇親会、海月館にて



伊弉諾神社にて
会員の片山さん(写真)の
ご父君が寄贈された神馬

25周年記念イベントを開催企画中

公益社団法人に衣替えした芦屋市シルバー人材センターは、市民と手を携え、「感謝と絆」をテーマに、より良い地域社会実現に向けた一環として、25周年記念イベントを2日間開催する予定です。日ごろの感謝に込めると共に、「はつらつ館」の一層のアピールを図ります。

- 日時 10月20日(土)・21日(日)
場所 「はつらつ館」全館
- ・朝市
 - ・会員の作品展
 - ・囲碁大会
 - ・子ども達との遊びを通しての交流
 - ・ホットコーナー(喫茶) など

充実した行事にするには会員の協力が不可欠です。作品の応募、ボランティアなど、別にご案内しますのでよろしくお願いいたします。

25周年事業委員会
(会員活動・広報委員会)



奥池町 日下嘉雄邸



東山町 東山町自治会美化推進
花づくり部会



船戸町 ラポルテ花と緑の会

平成16年に芦屋庭園都市が宣言され、今年で8年目を迎えました。花と緑いっぱい美しい潤いのあるまち、芦屋市をテーマに2年後にオープンガーデンがスタートされました。

最終日4月29日には市役所北館広場で、公園緑地課より記念品のラベンダーを頂き終了しました。又、来年も楽しみにしています。

取材 佐々木廣明

Open Garden 2012 スタンプラリーに参加。 花と緑に満喫!



ガーデン参加は、個人(自宅)、コミュニティ花壇(グループ)、店舗(事務所)、学校園で奥池から潮声屋まで38個所でした。スタンプラリーは平成21年から同時開催され、今年で4回目を迎え82個所にまで増えてきました。

四季の彩りに魅せられ、花・花木・野鳥などを撮り続けている私は、今年もカメラとスタンプラリーマップを手4月22日の初日から見学してきました。今回は開催期間が短縮されたため全個所回る事が出来ませんでした。花と緑を満喫することが出来ました。



打出小槌町(株)越智工務店



陽光町 アシアン・ユリオプス

編集後記

芦屋市の人口は、9万4967人(平成24年5月1日現在)。うち60歳以上の人口は、30,220人で31.28%です。全国平均30%に比して高くなっています。芦屋市は、文化住宅都市として評価も高く気候温暖、交通の便も良く住みやすく移り住む人も増えてくるでしょう。

そして、さらに高齢化が進むと思われま。

高齢者の多くは、それぞれの趣味や生きがいを持って生活されておられますが、永年培われた経験や知識を活かすことなく埋もれさせている人も少なくないでしょう。また、それを活かせる場も少ないでしょう。

芦屋市シルバー人材センターは、自主、自立、共働、共助、高齢者の能力を活かせる場です。

会員数は約1,000人、芦屋市高齢者人口の3.3%です。

公益法人としてもっと多くの人に知らせること、知ってもらおうことが必要です。

芦屋市シルバー人材センター「はつらつ館」の扉はいつも開かれています。



新広報委員
岩崎 準一
(会員番号2016)

はつらつギャラリー



辻原 永子
(会員番号1249)



宮本 允子
(会員番号26)

「的当て」「切り絵」の制作

託児室は展示場

小さなお客様に大人気の、アンパンマンの力を借りたくて、泣く子も黙る「的当て」(左上)を作りました。マジックテープのついたボールは、アンパンマンやバイキンマンにくっつきます。ドキンちゃんや、おむすびマンも小さな手でくっつけたり、はがしたり・・・。

辻原会員は、春夏秋冬、季節変わりで、可愛い切り絵、張り絵で託児ルームの楽しさを盛り上げます。

「ほーら、熊さんよ」「こっちは蛸さんね」と言うと、一瞬でも「ママ恋し」の気持ちを忘れさせる魔法をかけることができます。
(文・宮本 允子)

